

平成 26 年度 政策評価結果

平成 26 年 9 月

京 都 市

1 政策評価制度とは

(1) 政策評価制度の目的

政策評価制度は、京都市基本計画に掲げた政策・施策それぞれの分野において、その目的がどの程度達成されているかを、各種の指標やアンケート調査を基に把握し、市民の皆様公表するとともに、より効果的な市政の運営や政策の企画・立案に生かすためのものです。

なお、評価の結果は、毎年度の京都市の取組結果のみによるものではなく、国その他の行政活動や民間活動を含む幅広い活動の結果を踏まえたものとなっており、それらを含めて分析を加え、活用します。

(2) 取組経過

平成15年度	試行実施
平成16年度～	本格実施
平成19年度	京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例（行政評価条例）の制定・施行
	〔政策評価、事務事業評価等の7つの評価制度を 恒久的・継続的な取組に位置付け〕
平成26年度	5月 市民生活実感調査を実施
	9月 政策評価結果を公表
	(今後の予定)
	政策評価委員会に評価結果を報告し、 来年度の政策評価方法の改善方針等について審議

(3) 政策評価の対象と手法

ア 評価の対象

平成23年度から10年間の都市経営の基本である「はばたけ未来へ！ 京プラン（京都市基本計画 第2期）」（以下「京プラン」といいます。）の政策体系をベースに、特定の行政課題に対応するために本市が目指すべき基本的方向である政策（27項目）と、政策をより具体化した行政活動の目標となる施策（114項目）を評価します。

イ 評価の手法

政策・施策ごとに、統計データ等の中から客観指標を設定して目標達成度等の成果を測る「客観指標評価」と、「京プラン」に掲げた「みんなでめざす10年後の姿」に対して今の市民生活がどうなっているかをアンケートでお尋ねする「市民生活実感評価」の結果を総合し、A～Eの5段階で評価します。

なお、政策評価制度については、政策評価委員会からの意見を踏まえ、毎年度、客観指標や評価票の見直しなど充実、改善を行っており、今年度も、新たな客観指標の設定や政策の客観指標評価方法の見直しなど、よりの確でわかりやすい制度づくりを進めています。

【客観指標評価】 → a ～ e の 5 段階評価

政策指標の例：市内の学生数が全国の学生数に占める割合

施策指標の例：大学コンソーシアム京都加盟校に占める単位互換制度参加大学・短期大学の割合

- * 各政策・施策の状況を統計的な数値等により表した客観指標をそれぞれに設定し、その目標達成度を評価します。
- * 政策については、関連する施策の評価を加味して評価します。

【市民生活実感評価】 → a ～ e の 5 段階評価

アンケートの設問例：大学のまちとして学びの環境が充実している。

- * 市の取組についてどう思うかではなく、市民生活がどのようになっているかを 130 の設問でお尋ねし、「大変良い状況にある」から「大変悪い状況にある」までの 5 段階で答えていただきます。

【総合評価】 → A ～ E の 5 段階評価

政策・施策の目的が

- A：十分に達成されている
- B：かなり達成されている
- C：そこそこ達成されている
- D：あまり達成されていない
- E：達成されていない

① 政策の総合評価

- * 客観指標評価と市民生活実感評価を同等に重視したうえで、政策が各行政分野でめざす基本的な方針であることを踏まえ、社会経済情勢等を含む多角的な観点から様々な要素を総合的に考え合わせて行います。

② 施策の総合評価

- * 政策の総合評価と同様、客観指標評価と市民生活実感評価を同等に扱います。
ただし、両者の評価結果の平均が A ～ E の 5 段階で区分できないときは、施策の具体的な内容に応じて予め定めておいたより重視すべき方の評価結果（客観指標評価又は市民生活実感評価）を重視して、総合評価を行います。

2 政策・施策評価結果

(1) 政策の評価

政策 27 項目の評価結果の内訳

年度	A	B	C	D	E	計
26年度	4	22	1	0	0	27
25年度	3	16	8	0	0	27

- 8政策の評価が上がり、評価が下がった政策はありませんでした。
- 昨年度に比べ、国際化がBからAに評価が上がり、環境、人権・男女共同参画、青少年の成長と参加、文化、農林業、保健衛生・医療、歩くまちの7政策がCからBに評価が上がりました。
- 大学、学校教育、くらしの水が引き続きA評価の一方、消防・防災が引き続きC評価となりました。

主な特徴

- 政策名「環境」 政策番号1
温室効果ガス排出量削減率、本市が受け入れるごみ量に加え、エネルギー政策推進のための戦略の策定に合わせて、新たにエネルギー消費量削減率を客観指標に追加したことにより、市民や事業者の省エネや節電の取組が反映されるようになりました。
- 政策名「国際化」 政策番号12
観光客等を引き寄せる魅力と受入環境に対する市民生活実感評価及び平和都市として国際社会に貢献していることに対する市民生活実感評価が向上したことにより、総合評価がBからA評価に上がりました。
- 政策名「歩くまち」 政策番号20
観光客の公共交通機関に対する評価向上により、客観指標評価が向上したことに加え、駐輪場の整備や自転車の利用マナー向上の取組の推進により、市民生活実感評価も向上し、総合評価がCからB評価に上がりました。
- 政策名「消防・防災」 政策番号26
火災による高齢者の死者が増加したことにより客観指標評価に改善が見られませんでした。消防体制への信頼感は引き続き高い評価を得ています。今後も、迅速かつ確かな災害対応に万全を期すことはもとより、市民の防火意識の一層の向上に努めていきます。

<政策評価結果一覧>

政策	評価
1 環境	B
2 人権・男女共同参画	B
3 青少年の成長と参加	B
4 市民生活とコミュニティ	B
5 市民生活の安全	B
6 文化	B
7 スポーツ	B
8 産業・商業	B
9 観光	B
10 農林業	B
11 大学	A
12 国際化	A
13 子育て支援	B
14 障害者福祉	B

政策	評価
15 地域福祉	B
16 高齢者福祉	B
17 保健衛生・医療	B
18 学校教育	A
19 生涯学習	B
20 歩くまち	B
21 土地利用と都市機能配置	B
22 景観	B
23 建築物	B
24 住宅	B
25 道と緑	B
26 消防・防災	C
27 暮らしの水	A

(2) 施策の評価

施策114項目の評価結果の内訳

年度	A	B	C	D	E	計
26年度	26	64	23	1	0	114
25年度	24	67	19	4	0	114

- 昨年度と比べ、19施策の評価が上がり、16施策の評価が下がりました。
- 「まちなぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備」がDからBに評価が上がり、「無電柱化等による魅力あふれる道路空間の創出」、「火災を未然に防止して市民のいのちとくらしと財産を守る予防消防の推進」の2施策がDからCに評価が上がる一方、「京都らしいすまい方の継承」が引き続きD評価となっています。

主な特徴

- 施策名「食や生活環境の安全・安心の確保」 施策番号 1703
客観指標である非喫煙者の割合と食の安全衛生管理認証数が向上するとともに、路上喫煙防止の取組等の成果もあって、公共の場での禁煙が進んでいるとの市民生活実感評価も引き続き高く、総合評価がBからA評価に上がりました。
- 施策名「便利でくらしやすい生活圏づくり」 施策番号 2101
客観指標である鉄道駅など交通拠点周辺の集客的土地利用の割合が向上したことにより、総合評価がBからA評価に上がりました。引き続き、駅周辺等にふさわしい都市機能検討委員会の提言を踏まえ、便利でくらしやすい生活圏づくりをめざし、都市計画の見直しを行っていきます。
- 施策名「京都らしいすまい方の継承」 施策番号 2401
客観指標である平成の京町家の認定戸数が伸び悩んでいるため、引き続きD評価となっています。まだまだ始まったばかりの取組であり、市民に十分浸透していないことが課題の一つであることから、今後より一層、市民や事業者に広く普及啓発活動を展開していきます。
- 施策名「健やかな生活が実感できる緑化の推進」 施策番号 2502
引き続き、緑豊かなまちに対する市民の高い満足度に加え、道路の森づくり、花の道づくり事業の更なる推進等により、客観指標である街路樹の総本数が増加したことから、総合評価がBからA評価に上がりました。

<施策評価結果一覧>

施策番号	施策名	評価
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全	A
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現	B
0103	ごみを出さない循環型社会の構築	A
0201	すべてのひとの人権を尊重する人権文化の構築	C
0202	人権尊重の理念を自主的な行動につなげる取組の推進	C
0203	すべての市民がいいきと活動できる取組の推進	C
0204	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進	B
0205	女性に対するあらゆる暴力の根絶	B
0301	青少年の自主的な活動の促進	B
0302	課題に直面する青少年の総合的支援の推進	B
0303	青少年の成長を支援する環境づくり	B
0401	いいきと活動する地域コミュニティづくり	C
0402	すべての市民活動団体の活性化	B
0403	地域コミュニティと京都市との新しいパートナーシップ	C
0501	生活安全（防犯・事故防止）の推進	B
0502	消費生活の安心・安全の推進及び消費者の自立支援	B
0601	すべての市民が京都のまちを支え、かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり	B
0602	歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援	C
0603	世界的な交流を視野に入れた文化芸術環境の向上	A
0604	かけがえのない文化財の保護、活用と伝承	B
0701	それぞれの年齢や個性、環境に応じてスポーツやレクリエーションを楽しんでいるまちづくり（「するスポーツ」）	B
0702	トップレベルのスポーツに身近に触れられているまちづくり（「みるスポーツ」）	C
0703	多様なスポーツ活動を支え合っているまちづくり（「支えるスポーツ」）	B
0801	多様で活力ある中小・ベンチャー企業の育成と発展支援	B
0802	産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出	A
0803	京都の強みを生かした事業環境の整備	A
0804	伝統産業の活性化と新たな展開の推進	B
0805	地域の特性に応じた商業振興	B
0806	ソーシャルビジネス（社会的企業：社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む事業体）への支援	B
0807	市民に安心していただける流通体制の強化	A
0808	雇用の維持・確保と新たな雇用創出に向けた取組の推進	B
0901	観光スタイルの質の向上	B
0902	観光都市としての質の向上	A
0903	国際 MICE 都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～への飛躍	B
1001	産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成	B
1002	環境や社会に貢献できる農林業の育成	B
1003	市民との共汗で築く農林業	B

施策番号	施策名	評価
1101	京都で学び、住み続けたいなる「大学のまち」の実現	A
1102	大学の国際化に向けた人材育成と留学生等の受入拡大	B
1103	学生のパワーで活気あふれる「学生のまち」の実現	C
1104	産業の振興と大学教育の充実に向けた産学公地域連携の推進	B
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信	B
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進	A
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進	C
1301	市民ぐるみ・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくり	B
1302	子どものいのちと人権が大切にされるまちづくり	C
1303	次世代を育むすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり	A
1304	子どもを安心して生み健やかに育てることのできるまちづくり	B
1305	子どもの健全育成のための環境づくり、放課後の子どもたちの居場所づくり	B
1401	お互いに認め合い支え合ってくらすまちづくり	B
1402	自立した地域生活への移行促進	B
1403	生きがいをもって働くことができる社会づくり	C
1404	生活しやすい社会環境の整備	B
1501	地域の福祉ニーズの把握	B
1502	地域におけるつながりの構築	C
1503	関係者の連携・協働の推進	B
1504	地域福祉を通じた安心・安全のまちづくり	B
1601	高齢者の尊厳を保つ社会の構築	B
1602	活力ある長寿社会の実現	B
1603	高齢者を支えるネットワークの推進	B
1604	介護サービスの充実による豊かな生活の実現	B
1605	魅力ある介護現場の実現	C
1701	市民の健康づくり活動の推進	B
1702	保健医療サービスの充実	B
1703	食や生活環境の安全・安心の確保	A
1704	健康危機に対する安全・安心の確保	C
1801	市民ぐるみの教育の推進	A
1802	子どもたちに「生きる力」を育む教育の推進	A
1803	教職員の資質・指導力の向上	A
1804	新しい学習環境づくり	A
1901	市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の拡充	A
1902	学びが社会に還元されるしくみづくり	B
1903	子どもを共に育む気運づくり	B

施策番号	施策名	評価
2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化	B
2002	歩く魅力を最大限に味わえるような歩行者優先のまちづくり	B
2003	歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換（「スローライフ京都」大作戦）	B
2004	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用	A
2005	歩行者と共存可能な自転車利用の促進	B
2101	便利でくらしやすい生活圏づくり	A
2102	商業・業務機能が集積したにぎわいのある魅力的なまちづくり	A
2103	創造を続ける南部地域のまちづくり	C
2104	市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくり	B
2105	まちづくりを支えるしくみづくり	B
2201	山紫水明の自然景観の保全	A
2202	品格のある市街地景観の形成	B
2203	歴史的な町並みや京町家等の保全	C
2204	無電柱化等による魅力あふれる道路空間の創出	C
2205	市民とともに推進する景観まちづくり	C
2301	安全な新築建築物の供給	A
2302	既存建築物の安全性の向上	B
2303	細街路対策による災害に強いまちづくり	B
2304	環境に配慮され、だれもが使いやすい建築物の誘導	B
2305	公共建築物の先導的整備	B

施策番号	施策名	評価
2401	京都らしいすまい方の継承	D
2402	住宅ストックの良質化のための適正な維持管理や更新の支援	B
2403	既存住宅の流通活性化のための条件整備	B
2404	住宅・住環境の安全性の向上	C
2405	重層的な住宅セーフティネット（安全網）の構築	B
2406	中・大規模の市営住宅団地のマネジメント	C
2501	幹線道路ネットワークの充実	B
2502	健やかな生活が実感できる緑化の推進	A
2503	都市活動を支える社会資本の維持管理	B
2504	まちのにぎわいと潤いを創出する市街地環境の整備	B
2601	火災を未然に防止して市民のいのちとくらしと財産を守る予防消防の推進	C
2602	あらゆる災害による被害を最小限に抑える消防活動体制の充実強化	C
2603	市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上	B
2604	地域の災害対応力の向上をはじめとする防災危機管理体制の充実	C
2701	安全・安心な水道・下水道の構築	A
2702	環境負荷の少ない水道・下水道の構築	A
2703	水道・下水道の機能維持・向上	A
2704	市民ニーズに対応した上下水道サービスの推進	B
2705	上下水道事業の経営基盤の強化・安定	A
2706	水辺環境の整備	B
2707	水共生の取組の推進	B

昨年度と比較して客観指標、市民生活実感の結果が上下した原因の分析や総合評価の判断内容については、別冊「平成26年度 政策評価（評価票）」に掲載していますので、別冊「平成26年度 政策評価（客観指標基礎データ）」と併せて御参照ください。

3 評価結果を市政運営へ活用

評価結果については、来年度の予算編成、各局区等の政策推進などの際に、重要な情報として活用していきます。

4 第三者機関の意見 ～京都市政策評価委員会による制度の改善，充実～

今後、第三者機関である京都市政策評価委員会から今回の政策評価結果に関する御意見を頂き、来年度に向けて制度の充実，改善を行います。

京都市政策評価委員会委員（敬称略・五十音順）

あかがわ	きょうこ	公認会計士
赤川	京子	
かざま	のりお	同志社大学政策学部教授
風間	規男	
くぼた	よしお	京都府立大学公共政策学部准教授
窪田	好男	
しほはら	ひろみ	特定非営利活動法人ユースビジョン事務局長
芝原	浩美	
すがはら	けいこ	市民公募委員
菅原	敬子	
せき	えりか	立命館大学経済学部教授
関	絵里香	
やまだ	だいち	市民公募委員
山田	大地	

政策評価結果は以下のホームページに収録しています。

（「政策評価制度」ホームページ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035589.html>）

なお、9月19日（金）から京都市情報公開コーナーにおいても公開します。



京都市の政策評価に関する御意見・御提案をお待ちしています。

- ホームページ内の送信フォームによる受付

（「市民意見申出制度」ホームページ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000110785.html>）

- 電話・FAXによる受付

京都市総合企画局市長公室政策企画担当

TEL：075-222-3035 FAX：075-213-1066

＜参考＞ 市民生活実感調査について

1 調査対象

20歳以上の市民3,000人(住民基本台帳及び外国人登録データから無作為抽出)

2 調査内容

(1) 生活実感

「京プラン」に掲げた「みんなでめざす10年後の姿」に対して、今の市民生活がどうなっているかをお尋ねするため、130の設問について市民の実感を、次の5段階で回答いただくもの

a: そう思う b: どちらかというと思う c: どちらとも言えない
d: どちらかというと思わない e: そう思わない

(2) 政策の重要度

27政策のそれぞれについて、市民が考える重要度を5段階で回答いただくもの

(3) 市政への関心度

市政への関心度合いを5段階で回答いただくもの

(4) 幸福実感

幸福の実感度合いを5段階で回答いただくもの

3 調査期間

平成26年5月13日～6月13日

4 回収状況

有効回答数 1,105 (回収率: 36.8%)

	有効回答数	回収率
26年度	1,105	36.8%
25年度	1,137	37.9%
24年度	1,186	39.5%

5 調査結果

(1) 生活実感

ア 生活実感調査結果の集計

	a	b	c	d	e	計
26年度	22	46	53	9	0	130
25年度	19	45	53	13	0	130
24年度	17	42	55	16	0	130

* 以下、aとbを合わせて「肯定的な回答」、dとeを合わせて「否定的な回答」といいます。

イ 肯定的な回答をした人の割合が高い設問

26年度	①三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。(84.1%)
	②地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。(82.8%)
	③公共の場では禁煙が進んでいる。(82.1%)
25年度	①三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。(84.4%)
	②地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。(80.9%)
	③京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。(80.6%)
24年度	①三山の山並みなどの自然風景は、美しく魅力がある。(87.7%)
	②公共の場では禁煙が進んでいる。(84.1%)
	③京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。(81.9%)

ウ 否定的な回答をした人の割合が高い設問

26年度	①プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。(49.6%)
	②まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。(44.4%)
	③身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなるよう改善されている。(41.9%)
25年度	①プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。(48.6%)
	②まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。(45.4%)
	③駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。(45.2%)
24年度	①青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。(52.4%)
	②京都の農林業が魅力を増し、後継者や新たな担い手が育っている。(51.9%)
	③まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。(50.8%)

エ 政策の生活実感評価

生活実感調査の回答を点数化 (a:2点 b:1点 c:0点 d:-1点 e:-2点) し、政策分野別に集計した結果、生活実感評価の高い政策分野順位は別表1のとおりとなりました。

【別表 1】生活実感評価の高い政策分野順位

26年度順位	政策分野	25年度順位
1	観光	2
2	保健衛生・医療	4
3	大学	3
4	くらしの水	1
5	景観	5
6	国際化	7
7	文化	6
8	消防・防災	8
9	土地利用と都市機能配置	9
10	環境	10
11	生涯学習	11
12	学校教育	12
13	道と緑	13
14	歩くまち	14
15	産業・商業	15
16	子育て支援	17
17	高齢者福祉	16
18	市民生活とコミュニティ	18
19	建築物	19
20	地域福祉	21
21	市民生活の安全	20
22	障害者福祉	22
23	スポーツ	23
24	住宅	24
25	人権・男女共同参画	25
26	農林業	26
27	青少年の成長と参加	27

(2) 政策の重要度【別表2参照】

27政策それぞれについて、市民が考える政策の重要度を、「重要である」、「どちらかというと重要である」、「どちらとも言えない」、「どちらかというと重要ではない」、「重要ではない」の5段階で回答いただくもの

「重要である。」又は「どちらかというと重要である。」と回答した人が多い政策

26年度	①消防・防災，②くらしの水，③環境，④市民生活の安全， ⑤保健衛生・医療
25年度	①消防・防災，②くらしの水，③環境，④市民生活の安全， ⑤保健衛生・医療

(参考) ※平成24年度以前は、重要と考える上位5政策を選択する設問

24年度	①子育て支援，②消防・防災，③市民生活の安全，④高齢者福祉， ④環境
------	---------------------------------------

(3) 市政への関心度（市政への関心度合いを5段階で回答）

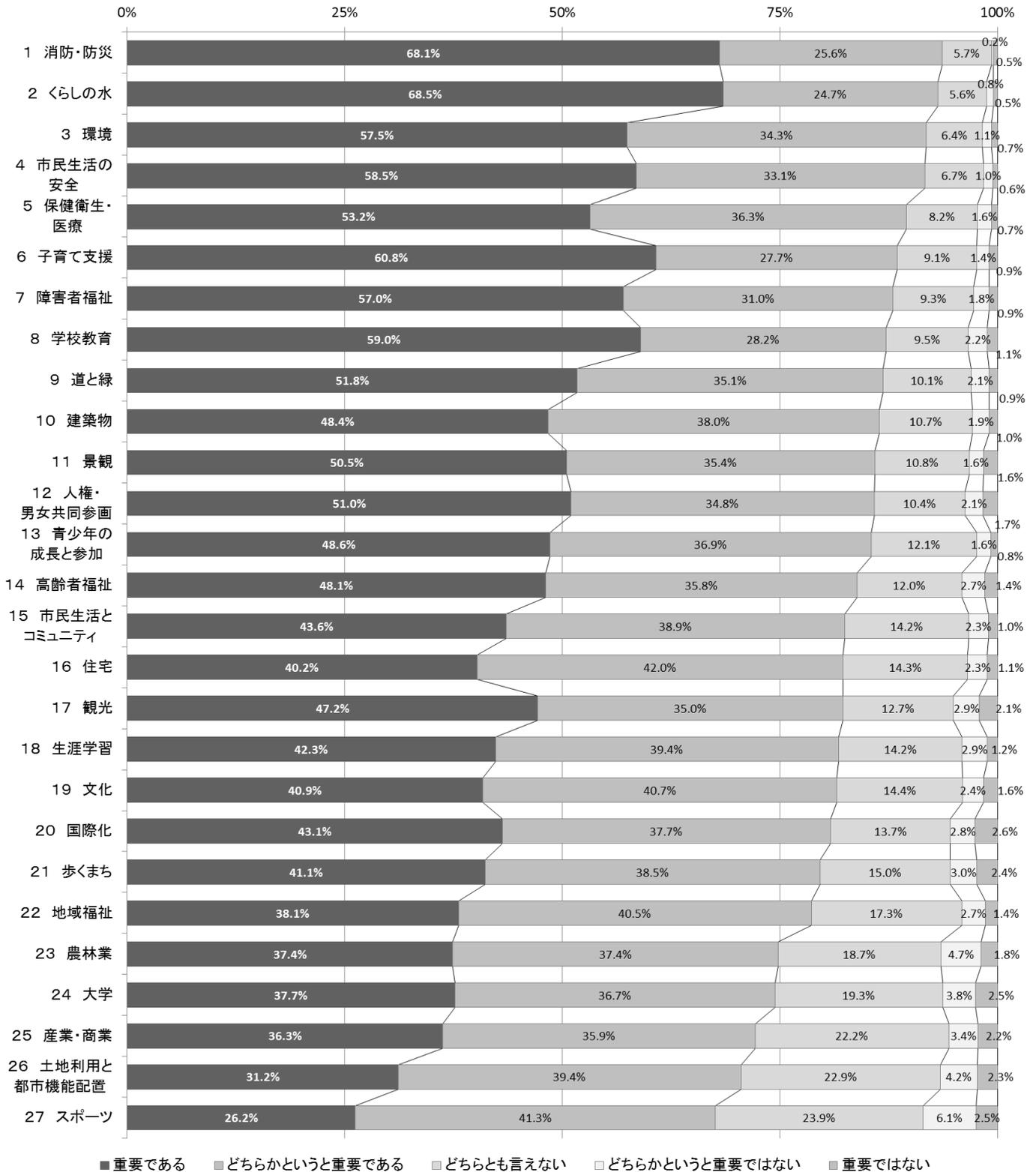
	関心がある	少しは関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	わからない	無回答
26年度	34.8%	44.5%	9.0%	0.9%	3.3%	7.3%
25年度	34.5%	43.7%	8.6%	1.1%	3.2%	8.9%
24年度	33.1%	46.2%	10.4%	0.9%	3.8%	5.6%

(4) 幸福実感（幸福の実感度合いを5段階で回答）

	とても幸せだと思う	どちらかというと幸せだと思う	どちらとも言えない	どちらかというと幸せではないと思う	不幸せだと思う	無回答
26年度	16.7%	56.6%	15.8%	3.3%	1.2%	6.3%
25年度	19.1%	52.3%	16.6%	4.7%	0.6%	6.7%
24年度	17.3%	55.4%	16.7%	3.8%	1.4%	5.4%

<参考> 政策重要度と市民生活実感のマトリックス【別表3】

【別表2】政策の重要度



※ 上記グラフ内は、有効回答に占める「重要である」～「重要ではない」を選択した人の割合を記載している。
 ※ 政策重要度は、「重要である」または「どちらかという重要である」を選択した人数を有効回答数で除する方法により、順位付けを行っている。
 なお、上記グラフではそれぞれの割合の内訳を示しているため、四捨五入の関係で、「重要である」と「どちらかという重要である」の割合の合計が同率となる場合がある。

政策重要度：回答数÷有効回答者数
 市民生活実感：政策ごとの生活実感の平均数値

【別表3】政策重要度と市民生活実感のマトリックス

